

ドミノになる私たち

富永萌夏

私たち人間は地球と呼ばれている惑星で生きている。ここ地球で人類が誕生してから、多種多様な生活環境の中で多種多様な人種と文化が生息している。だが、現在インターネットの発達やグローバル化など、目まぐるしい速度で環境が変化し、それに平行して人類にも多大な問題が表面化してきている。もう、呑気に遙か遠くの異国を思うようなことはない。まるで、すぐ隣の家が他国であるようだ。

グローバルシチズンシップは世界市民の意識と直訳できる。地球という一つの大国に暮らしている地球社会の構成員であり、自身の利益に執着するのではなく、地球社会全体のことを考えるべきであるという意識がグローバルシチズンシップだと考える。ここで必要になるのが、この意識を支える姿勢である。

「素晴らしく公平、公正だった」これは日系アメリカ人弁護士であり、戦後日本とアメリカの架け橋となった村瀬二郎を表した言葉である。村瀬二郎氏は間違いなくグローバルシチズンシップを持ち、なおかつグローバルリーダーであった。今日の多文化主義社会を支えているのが、村瀬氏も兼ね備えた正義を尊び、公平、公正に重きをおく姿勢である。どんなに弁護士としての仕事から外れていたとしても、アメリカに暮らす日本人として同胞を支えていた温厚で寛大な村瀬氏であったが、課題図書的一幕に登場した東芝の不誠実な対応に憤りを覚えた村瀬氏の姿が印象的であった。彼は、いかなる場面でも自身の信条を崩さず、長いものに巻かれることもなかった。村瀬氏の信条から外れた行動をしたとしても、一度関わったことなら最後まで責任を持ち続けるその姿勢に感銘を受けた。私は何に対して責任を持つことができるのだろうか、責任を持つという段階に立てるようになるにも容易ではない。責任を持つ覚悟ができる物が真のグローバルシチズンとなっていくのだろう。

日本とアメリカの架け橋になった村瀬氏の強みは、両国の価値観を体得しているところだ。知識として持っているだけでなく、肌で感じているからこそ体得できるのだ。

村瀬氏が持つ独特の価値観から発せられた「グレーも立派な価値だ」という言葉。私は白黒付けるのが善だと信じ切っていた価値観を持っていることに気付かされたと同時に、衝撃を受けた。グレーが存在して許されるのだ。さらには、許容されただけでなく、あのグレーに価値が見出されているのだ。村瀬氏は何をグレーとして表しているのか。物事には多角的な面が存在する。戦争においても一方から見て自国は白であり、相手国は黒、もう一方から見ても自国は白であり、他国は黒となる事象がいくつもある。これはどちらかが偽っているわけではない。この事象の根底に、個人の経験そして民族、祖先の記憶というバイアスがあるということを忘れてはいけない。無意識のうちに私たちはこれらにより物事を判断している。それぞれの視点から見ると双方とも白であり、バイアスを通して見ると他国は黒となる。ここで、新たな価値としてグレーが生まれる。それは、視点の違いを認識することだ。この視点の違い、つまり価値観の違いがあることを認めて、受け入れることが村瀬氏の言ったグレーだと私は解釈した。このグレーの姿勢もグローバルシチズンシップを構成し、人々が村瀬氏に学ぶべきことである。

私は高1の夏、高田馬場にある日本語学校にボランティアに行った。初日静まり返った教室を空けると、20名ほどの生徒の視線が私に向けられた。私自身も驚いたことに、不安よりも早くみんなの中に入っておしゃべりがしたい気持ちに駆られた。彼らの人種を考える暇もなく、人として接したい気持ちが勝っていたのだ。その時私は一つの変化に気付いた。突如教室のよどんだ空気が晴れ渡り、和やかな雰囲気となり、笑い声さえ聞こえるようになった。私の話したい、接したいという温かな気持ちが周囲の生徒にも伝染したのだ。ドミノのように。

村瀬氏の強みは、日本とアメリカ双方の価値観取り入れた彼独自の価値観をもっていることだった。人の持っている環境や経験はその人にしか持てないものであり、その人から発せられる言葉も同様である。グローバルシチズンはそれぞれの価値観を持ちながら、自身と他者に差異があることを認識し、その違いを受け入れたうえで、他者への理解と自身の言動に責任を持つ必要

がある。これが私の考えるグローバルシチズンシップであり、私もいちグローバルシチズンとして生きていきたい。

参考文献

- 児玉 博 日本株式会社の顧問弁護士 村瀬二郎の「二つの祖国」．文春新書,2017.
- Barna, Laray, M. *Stumbling Blocks in Intercultural Communication*. CA: Wadsworth Publishing, 1994.
- Shipman, Pat. *The Evolution of Racism: Human Differences and the Use and Abuse of Science*. New York, NY: Simon and Schuster, 1994.